
2006年春夏企画のポイント

東京都立産業技術研究所 嶋

明

1 はじめに

2005年秋冬傾向はデザイナーズ・コレクションで「ナポレオン戴冠200周年」が注目されました。そのためイメージでは、ビクトリアン・ミリタリー調やナポレオンにまつわる紋章（逆向きの頭を持つ鷲やミツバチなど）、ナポレオン皇后ジョゼフィーヌ・ド・ボアルネをアイデア源としたエンパイア・スタイルや彼女が愛したバラのモチーフ、また歴史的な遠征を背景として形成されたエジプト装飾や帝政ロシアなどの紋柄が数多く提出されていました。

これに続く2006年春夏では、全体的に落ち着のあるシックなトラディショナル・スタイルと、自分が納得できる自由な着こなし「マイ・リアル」の発想という2点が重視されます。そしてこの両者が持つ雰囲気はごく当たり前の見慣れた要素が主を成しているため、前シーズンに出された「ナポレオン」などの題材抽出と違い、格別な題材が設定しにくくなっています。

以下で2006年春夏の市場動向や企画ポイントを列挙してみました。

2 注目される消費市場動向について

①注目国際市場

●中国では、2008年「北京オリンピック」、2010年「上海万博」が開催され文化や志向性、表現力などがアジア市場に多大な影響を及ぼすことが予測されます。

●大国的米国志向と共同的欧州志向の対立構図が一層明確になってきます。

●2006年のスポーツ・イベントでは、トリノ冬季オリンピック（2月10日～26日）、

FIFA W杯ドイツ大会（6月9日～7月9日）、FIBAバスケットボール世界選手権大会（8月19日～9月3日）などが注目されます。

●日本市場では、21世紀型生活基盤が継続的に模索されます。その中では特にインターネットの多様化やカードのオールインワン化、携帯電話決済などの決済システムの変化が問われます。

②注目世代

●高齢化の進行は、最終的なシングル・ライフを示唆した今までに体験したことのない新家族の形成消費を生じさせます。夫婦のあり方も夫婦間だけではなく他者を含め連携していく新パートナーシップ化も加速していきます。

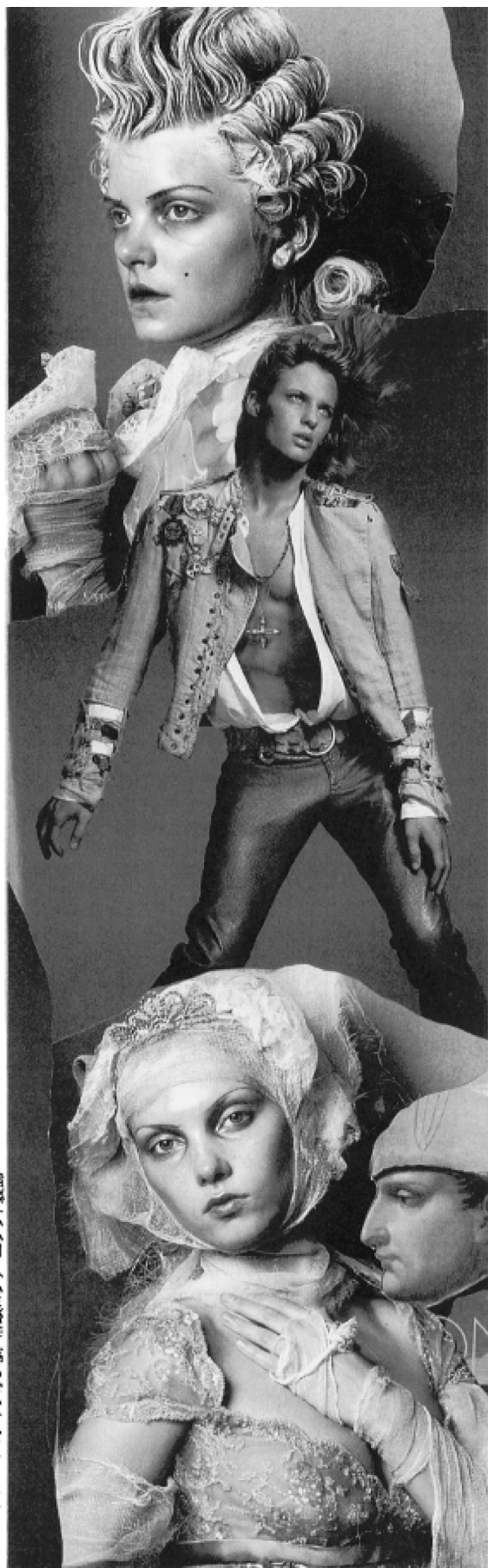
●シングル'40の増加が注目されます。今後は独自の嗜好性の追求や、また体型変化が体現するため、現存の若者文化ミューハー追従型の消費は、年相応成熟探しの消費へ転換していきます。

●少子化現象は日本市場に様々な影響を与えます。プチレモン世代は、父母、祖父母、叔父叔母などを伴った倍々消費ポケットを持つ裕福環境へ突入します。また教育のあり方変化や労働力を補うための女性の社会進出促進など、社会機構自体が大きく変化していきます。

③注目生活者像

●厳格な、確実な、知的な、重厚な、端正な雰囲気を持つリーダー的要素が注目されます。

●男性では、行動力と凛としたたたずまい



を演出するイメージで緒方拳、寺尾聡、江口洋介、唐沢寿明、永瀬正敏、坂口憲二、伊原剛志など。女性ではちょっと古風なイメージを持つ吉永小百合、桃井かおり、黒木瞳、松嶋菜々子、小雪、宮沢りえ、小西真奈美、矢田亜希子など。また伝統文化と現代とが融和するイメージとして中村勘三郎、中村獅童、林家正蔵などが注目されています。

④注目消費意識商品

●分かりやすく使い勝手の良い、若々しく楽しく見えるような「ユニバーサル要素のデザイン」が求められます。

●自己と他者のコミュニケーションのつながりを促進するような表現手段が求められています。そのため知識を充足する自己投資的な「うんちく、こだわり」商品が注目されます。

●安心や安定感が求められます。現在は「健康管理や住環境」などに優先されていますが、身体をサポートするような、リラクゼーションを促進するような、スポーティ感覚のスマートな商品が台頭します。不安要素を解消するため「ちょっと頑張る自分へのご褒美感覚的な商品」が注目されています。

●近年のトレンド情報の浸透は、二極的な消費意識を構成しています。より先鋭的な「トレンド・センス派商品」と、個性を重視する「マイ・ペース派商品」です。

●高齢者の若返り化、若者の背伸び感覚、親密な親子感覚などが影響し「ノン・エイジな商品」が進出しています。

●自国の文化を見直し継承発展させていくような伝統文化的商品も注目です。

3 2006年春夏ファッション基調

前シーズンから継続するものでは「上質感や高級感」が標準装備的に求められます。しかし過度な装飾性は陰りを見せ、ここ数年主流であったエレガント感がやや後退しています。

2006年春夏ファッション・イメージは、さらりと心地よい「リラックス感」と気品

に満ちた「ノーブル感」が浮上しています。キーワードは「ナチュラル」です。通常では「ナチュラル」は「自然」として、題材も自然界や花鳥風月などを準備しますが、今回は捉え方がちょっと異なります。「いつも身の回りにあったごく当たりまえの素材を自分なりに自然にわき上がる素直な感情で表現」することが切り口となります。それは例えば、日常的に何気なく行っているスタイル（行動）をベースとし、味付けとして自分が感じるノスタルジック感やロマンチックな雰囲気を加えることです。この雰囲気とは自分にとってのシンプルであり、のびのびとしたリラックスが得られるもの、回りとの調和が得られ少々抑制の効いたもの、しかし熟考型ではなく直感的なひらめきの表現などです。このように今シーズンは「ごく当たり前の見慣れたもの」が主軸となっているため格別な題材が設定しにくくなっています。企画段階でも他との差別化を図る創意工夫や演出が必要になってきます。例えばトラディショナル・スタイルでは、ベーシックな形態を徹底的に追求したプロの意地、知識、テクニックを表現したものです。またマイ・リアルな発想では、大人の味を表現するための上質感やリユクス感（Luxe：贅沢）にこだわりをみせたものです。また全体な味付けとして小物を「あそび心」として抑えて活用する演出効果も注目されます。

4 2006年春夏色彩

カラフルなイメージを持つハッピー・カラーから一転、シックな大人の雰囲気が台頭してきます。表面的な装飾性や色彩を抑えることで内面的な強さを表現します。キーワードは洗練されたナチュラル感です。そのため「精神性や健康、親近感、好奇心、素朴さ」などを表現するような色彩が求められます。

●色相は、暖色のモデレート系ブラウンやカラード・ニュートラル、寒色系のブルーやブルグリーンが注目されます。

●色調は、落ち着いた穏やかな色味のミッ



NEXT FASHION TRENDS KEY WORD

↓
団塊世代 高齢化 不良中年 新たな挑戦
1964-1967 BEATLES All You Need Is Love
伝統 アンダーグラウンド 国境を越えて 古今の調和
Our World 何でもあり 日々新鮮 多面体
書を捨てよ 家でのすすめ どこからでもやり直しはできるだろう
少子 晩婚 笑止千万 蘇る 騒名
自分のためのライフスタイル設定

↓
MY REAL NATURAL BASIC
RELAX NOBLE ROMANCE NOSTALGIA





ド・トーンが多出しています。またこれらと連動し活性させる色として明るめのパールからライトな色調も用いられます。

●配色は、曖昧な色味を演出する配色になります。フォ・カマイユ配色。グラデーションを用いたトーン・オン・トーン配色などが増加傾向です。コントラスト配色は減少しています。

5 2006年春夏表現設定

前シーズンに台頭したミリタリー・トラディショナル調やカントリー調、エスニック調の流れは時間軸を基調としています。これが一層深化し「大人っぽさとくつろぎ」を内在した空間軸を基調としたものへ変化しています。そのため明確な境界線が得られないことから、特定の題材が設定しにくくなっています。グローバル・ワイドな文化や民俗、時代、リゾート地などの魅力を感じる素材を直感的に活かし組み合わせることが求められます。

以下で2006年春夏に出現しそうな表現を設定してみました。

①精神的な表現

●砂漠の風が長い年月をかけて岩を削り生み出していく天然の造形美「デザート・ローズ」のような。大地の奥底から産出された鉱物の結晶のような。風雨に晒された漁師小屋や流木のような。

●繊細で不規則な表情。非構築的。不定型な量感の表現。未完成に見えるような仕上げ効果。

●鉱物の表面や断面を連想させる柄域。土壁。風化し浸食したような模様。植物標本のようなドライタッチ。壁紙に使われるようなアンティークな花柄。時代を感じさせるような控えめなストライプ。

●鉱物や砂の色彩。枯れた植物の色味。はかなげな灰味を帯びたナチュラル・カラー群。

②叙情的な表現

●子供の頃に描いた色褪せた水彩画。目を閉じるとそこには潤いに満ちていたセピア色の思い出が動き出すような。祖父母の温

もりを日だまりの中で感じるような。変わってしまった原風景を再度組み立て直すような。

●郷愁を誘うような。過去の蓄積を追求するような。洗練されたオーソドックスなスタイルと現代的なストリート性を組み合わせたソフト・カジュアルなイメージ。

●19世紀末から1920年代、60年代、70年代といった幅広い時代にあるデザイン・ソースを捉えたもの。例えば、退廃的なジャズが流れる「コットンクラブ」からデビット・ボウイに象徴される「グラムロック」までの混在感。ウィリアム・モリス風花柄。着古されたようなロマンチックな材質感。

●官能的なオールド・ローズやコーラルなどの色合い。ちょっとしっとり感のある穏やかなグリーンからブルーの色味。

③フォークロア的な表現

●風土をさすらい様々な文化を融合させていったジプシー・フォークロアのような。混沌としたカーニバルのきらめきの中に民俗的な素朴な手作り感を組み合わせるような。

●様々なフォークロアをアイデアソースに、自在な組み合わせから得られるフレッシュ感と哀愁に満ちあふれたスタイルの共存。素朴の中にあるちょっと楽天的な要素。

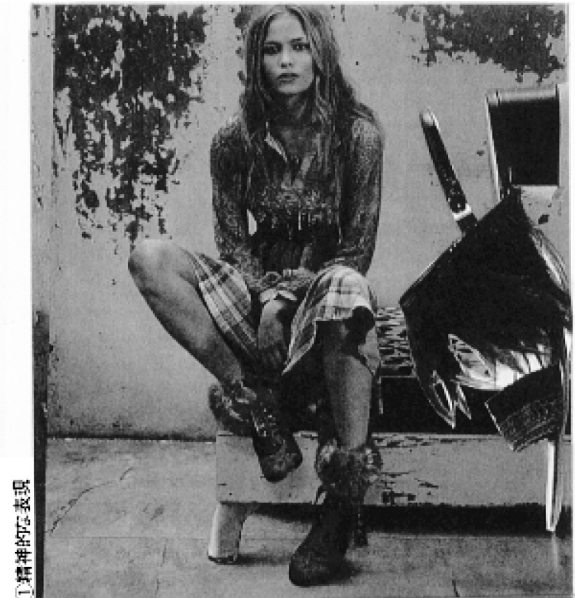
●東欧～イスラムのフォークロア文様。グラフィックな更紗。ダイヤ柄。テープ使い。

●陶器から抽出されるブラウンやインディゴ、オリーブなどの色合い。白を基調にしたシンプルなバイカラー使い。また抑制感のあるマルチカラー・ストライプ使い。

④機能的な表現

●洗練されたスーツやユニフォーム、スポーツウエアなどの機能的なアイテムと土着的なプリミティブ感を自在に組み合わせたような。日常の中にパワーを得るための構築性とハンドクラフトの融合。

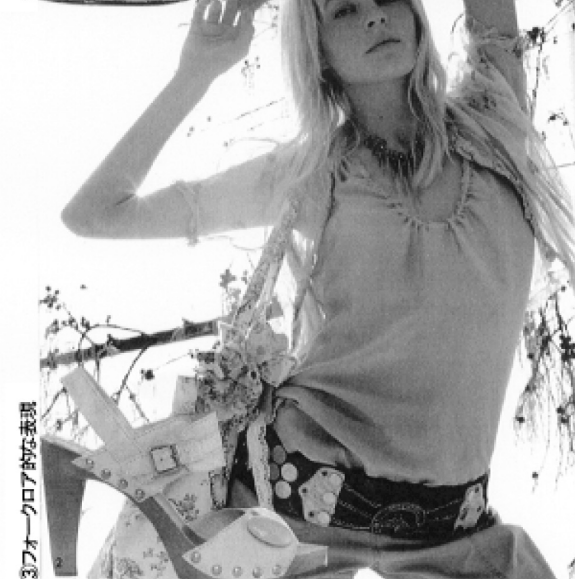
●やや抑制感のある厳格なグラフィック柄とダイナミックなプリミティブ・アート柄の相反するものの組み合わせ。しなやかさと構築的なもの。抽象化したロゴや方眼的



①精神的な表現



②叙情的な表現



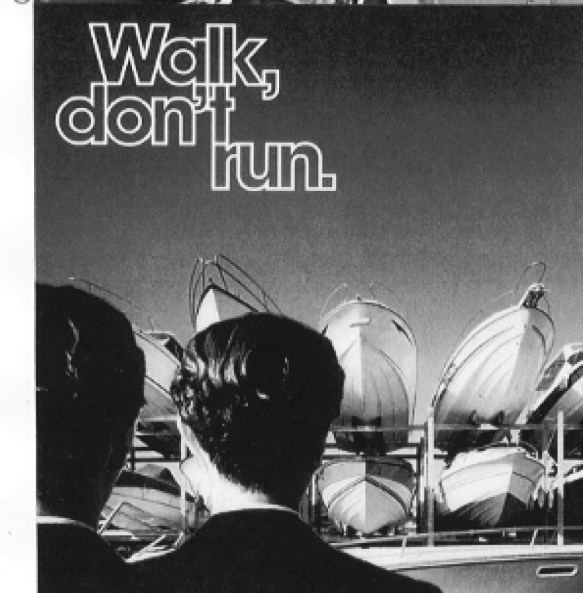
③フォークロア的な表現



④機能的な表現



⑤パラダイス的な表現



な柄とフリーハンドの表現。オプティカル・アートの幾何学柄と汚れた斑状の柄。

●やや暗く地味な、それでいて力強さを感じさせるミッド・トーンのブラウンやブルーの色味。

⑤パラダイス的な表現

●前シーズンからの継続的な要素を持つ表現として。南国のまぶしい太陽に照らされ解放されていくような。マリン・ブルーと珊瑚礁に育まれた時の伝説を味わうような。ゴーギャンが嫉妬したフレンチ・ポリネシアンの世界観。

●リゾート地の開放感やプールサイドのくつろぎを都会で表現したもの。身体への巻ものや羽織りものでフィット&フレアを構築。滑らかな光沢感や流動性を感じるもの。

●従来のハワイやタヒチだけではなく、オリエント・リゾート地のインド、ドバイ（アラブ首長国連邦）までの広域なアイデア源。ノスタルジックな風景や絵はがき。波や水面の波紋。熱帯の動植物柄。ネガポジの効果。ビーズ刺しゅう。パッチワーク。

●華やかなスパイシー感を持つカラフルな色味。グラデーションやにじみ効果を用いて微妙的な色彩効果を構築。単色のグラデーション。

6 おわりに

●LOHASが注目されています。

「ロハス」は“Lifestyles Of Health And Sustainability”の略語で、健康と環境を志向するライフスタイルと意識される米国発の生活観です。1998年、米国の社会学者ポール・レイ氏らが用いたマーケティング上の概念で、ロハス層は全米の約六千万人、成人人口の約三割を占めるといわれています。お洒落で楽しい生活を前提に、健康的で環境に配慮した「エコ」をも包含する「あくまでも自分のため」の商品やライフスタイルを目指しています。今後、日本でも関連ビジネスは衣食住をはじめ、あらゆる分野に広がりを見せくると考えられます。